

晴 | 雨 | 計



うことにな
る。そして
ホームズと
漱石がロン
ドンの街で
出会ったの
ではないか
という想像から山田風太郎が
「黄色い下宿人」を、島田荘司

老後の楽しみ

れるものと、老後の楽しみ
にとつてあるのが冒頭に例示し
たシャーロック・ホームズの研
究である。夜な夜なパイプをく
ゆらせ、スコッチを傾け、ガス
燈の下、馬車が行き交う当時の
ロンドンに思いはせながら、ホ
ームズのなぞ解きに挑戦してい
る初老の私、なかなか、カッコ

が「漱石と倫敦ミイラ殺人事件」
という作品を書いている。

AB型人間の特性故か、何事
にも手を出すのが広く浅くで、音
楽、映画、美術、落語、漫画(?)
どれも中途半端。だから友人は
だしの人を見ると尊敬してしま
う。そんな私が、いざ現役を
リタイアしたら少しは人様に誇

いでしょう。

この老後の楽しみのため、
十年くらい前から古本屋を歩き
回ってホームズに関する文献を
集めている。四年ほど前、ふと
立ち寄った六本木の交差点近く
の古本屋で長年探していたホー
ムズ研究の洋書を十冊以上も見
つけた時には、心臓が止まるほ

平山 征夫 (日本銀行 新潟支店長)

どうれしかった(しかも、聞け
ば某有名人が売りに出したもの
との由)。

しかし、その後帆船作りもロ
マンがあるとか、「写楽は誰
か」もおもしろいテーマだな、
などと浮気の虫が次々と起こっ
てくる。結局、老後も広く浅く
のままかもしれない。そして、
本当の老後の楽しみは、気の合
う友人と、良き思い出を肴(さ
かな)に一杯やることもかもしれ
ないと思いついて始めていること
である。

それにしても、上大川前通の
新潟のシャーロックアンが集ま
る喫茶店がなくなつて一年く
らいになるが、どつしたのだろ
う……。

「晴雨計・その後」⑧

「老後の楽しみ」

平山征夫

私がこの「老後の楽しみ」を書いたのは四十七歳、その時は精々働いても六十五歳位までと思っていたから、八十歳の平均寿命までの十五年間の老後の楽しみに「シャーロックホームズ」や「写楽」の研究を用意しておいたのだった。しかし、予定に反して未だ働いており、老後の楽しみの研究に染手出来ずにいる。買い貯めた本は大半未読のままだ。

シャーロックホームズについては、毎年結構な数の研究書が発刊されるので、それを漏らさず収集

するだけでも忙しい。その上、ホームズ役のジェレミーブレッドがはまり役でヒットした英国グラナダTVの「シャーロックホームズの冒険」がNHKで知事在任中繰り返し放送されたり、二三年前には現代に舞台を設定し、スマートフォン・フォンやインターネットも事件解決に貢献するBBCのテレビドラマ「シャーロック」が大ヒット、ホームズ役のカンバーバッチは一躍スターになるなど、ホームズ人気が続いている。ごく最近までNHKでも三谷幸喜の脚本で人形劇「シャーロックホームズ」を放送していた。マニアとして次々登場するホームズもののフォロワーに追われている。

写楽については、知事の途中で

大事件が起こった。写楽が十か月余の創作活動で忽然と消えてから五十年後、江戸の考証家斎藤月岑が追記した「増補版浮世絵類考」に「写楽は江戸八丁堀に住む阿波家お抱えの能役者斎藤十郎兵衛」とあるが、これをそのまま信じる人は少なく、色々の研究家が北斎説や京伝説など写楽別人説を唱えてきていたが、一九九七年越谷市のお寺の過去帳に「八丁堀地藏橋阿州殿内斎藤十良兵衛が文化三年三月七日五十八歳で亡くなった」と書かれているのが発見されたからだ。阿波派の人達は「斎藤十郎兵衛の存在が確認された。別人説の論争は終了」としたが、「十郎兵衛が絵の才能があったことが確認されない以上、確定とは言えない」

と反論。このため、写楽論争は、新たな段階に突入、私もその後の研究動向を見守っているところ。

実は知事退任後、海外旅行に出かけるようになって写真とルネッサンス美術等に興味を持ったほか、リーマンショックを契機に資本主義論に、大逆事件と啄木の係わりを調べているうちに鷗外の関わりの方に興味が発展してしまうなど、相変わらず気の多い典型的AB型人間ぶりで、老後は遠ざかっているのに楽しみのネタは増えるばかりなのだ。つれて増える本の山に妻は呆れて「生きている間に読める分に限ったら・・・」と言う。内心ご勘弁をと祈りながら「あの世でも読みたいなあ」と願っている。

(平成二十七年十一月六日)